

農学部図書室の文献複写業務

農学部学術情報掛長 末 益 尚 文

本年4月より、NACSIS-I LLによる文献複写受付分を書庫から探し出してコピーして封筒に入れて重さを量って郵送の準備をし、私費の複写料金を集計して書類を作って経理課で押印してもらって現金を経理部に運ぶ、そういう仕事に従事している。農学部構成員からの他大学・他機関に対する複写依頼と、他大学・他機関・学外者個人からの郵便での複写受付、その他学内文献複写相互利用などは2名の掛員が行っている。

農学部図書室は北部構内のほぼ中央の、上から見ると「日」の字に見えるだろうと思う、東西約180m、南北約90mの農学部建物の中央2階にある。2階部分の閲覧室および事務室と、地下から2階分を5層に区切りその上に1層足した書庫で構成されている。周りを理学部の各教室・数理解析研究所・基礎物理学研究所に囲まれ、しだれ桜の旧演習林事務室と附属農場の田圃・畑が北に広がって在る。図書室入口すぐの所に、3台の複写機とカラーコピー機1台が設置されており、学内・学外者の利用に供している。

校費による学内相互利用は、主に工学部化学系・理学部動物植物など、遠い所では南部構内の再生医科学研究所・医療技術短期大学部、その他アジア・アフリカ地域研究研究科、薬学部などからの利用者がある。遠隔地にある宇治分館・生態学研究センター（大津）・霊長類研究所（犬山）とは相互に学内便で複写物の送付を行っており、少ないが原子炉実験所（大阪府熊取）とも相互利用を行っている。私費による複写利用は農学部の利用者をはじめ、他学部・他大学・他機関・学外個人利用者など多様である。NACSIS-I LLでの利用も含めた年間の件数は、他大学・他機関からの受付が約5,700件、依頼が約400件、学内の複写件数が約

6,900件である。電子ジャーナルが利用出来る環境が整いつつあるが、まだこれといった大きな変化はみられない。今後の利用状況がどう変わっていくかというところである。

NACSIS-I LLによってオンラインでの相互利用が便利に行われているのだが、雑誌の複写依頼の巻と年が合っていない、該当のページに該当論文がない、開始ページ・終了ページは合っているのだがまったく違う論文名・著者名になっている等、再々悩ませられながら、日々端末と書庫と複写機の間を行き来している。また、国公立大学及び機関に対する、文献複写料の請求のための文書作成の作業が、結構な仕事量としてあるのだが、どうにかして無駄を省けないかと考えている。

一つの案は、業者委託にすることである。業者の管理によるコインコピー機の設置が、昨年より附属図書館内で利用されている。他大学・他機関からの複写依頼についても、受付の処理を図書館で行い、後の複写・郵送などの仕事は業者にまかせてしまう。全国的にはすでにいくつかの大学で行われている。

もう一つの案は、実際には実現不可能なことだと思うが、すべて無料でサービスする。少量のコピーでも、複写料・郵送料など結構な料金がかかり、そのための手数料がかかる。資料の分担収集・保存を行い、利用が一カ所に偏らないような方法を考え、電子ジャーナルの扱いも含めて全国的な施策を考える。出版社や書店のことも考えなければならない。

現実には、今の状態で文献複写相互利用は続いて行くと思う。利用者により便利に、少しでも研究の発展に寄与できるよう、頑張って仕事に励みたいと思っている。

（すえます なおふみ）